

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月11日

上場会社名 北海道中央バス株式会社

上場取引所 札

コード番号 9085 URL <http://www.chuo-bus.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 平尾 一彌

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 今 雅基

四半期報告書提出予定日 平成21年8月14日

TEL 0134-24-1111

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	7,449	9.2	△68	—	△27	—	△140	—
21年3月期第1四半期	6,820	—	△19	—	37	—	△127	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△5.31	—
21年3月期第1四半期	△4.59	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	33,348	24,591	73.4	922.17
21年3月期	32,676	24,819	75.6	930.47

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 24,473百万円 21年3月期 24,694百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
21年3月期	—	—	—	5.00	5.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	16,570	16.5	130	△39.0	170	△39.5	50	—	1.88
通期	36,060	5.1	760	△32.9	830	△32.8	440	60.0	16.58

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	31,460,000株	21年3月期	31,460,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	4,921,260株	21年3月期	4,920,334株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	26,539,045株	21年3月期第1四半期	27,709,272株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 現時点において、平成21年5月15日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、一部で景気の持ち直しの兆しが見られるものの、昨年後半からの景気悪化による企業収益の減少や雇用情勢の悪化等、依然として厳しい状況が続いております。

このような経営環境のなか、当社グループでは各事業にわたり、より一層の営業活動を展開するとともに、経営の効率化に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高7,449百万円（対前年同期比9.2%増）、営業損失68百万円、経常損失27百万円、四半期純損失140百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

## ① 旅客自動車運送事業

乗合バス部門では、札幌市の敬老優待乗車証制度の一部見直しがあったものの、景気低迷による輸送需要の落ち込みが大きく、減収となりました。貸切バス部門についても、新型インフルエンザ流行の影響でツアーのキャンセルが相次いだこと等により減収となりました。この結果、売上高は4,895百万円（対前年同期比5.3%減）、営業損失は9百万円となりました。

なお、貸切バス部門は、通常の営業形態として、夏期の貸切バス需要が多いため、第1四半期及び第2四半期の売上高が他の四半期に比べて高くなる季節的変動があります。

## ② 建設業

建設業では、厳しい経営環境のなか営業活動を強化し受注確保に努めたこと、また、「工事契約に関する会計基準」を当第1四半期連結会計期間から適用したことなどにより、売上高は1,407百万円（対前年同期比189.3%増）、営業損失は74百万円となりました。

## ③ 清掃業・警備業

清掃業・警備業は、契約内容の見直しや解約があり、売上高は661百万円（対前年同期比7.5%減）、営業利益は16百万円（同6.2%減）となりました。

## ④ 不動産事業

不動産事業は、賃貸物件の解約や賃料引き下げの影響がありましたが、宅地の販売を行ったことにより、売上高は238百万円（対前年同期比14.9%増）、営業利益は59百万円（同7.7%減）となりました。

## ⑤ 観光事業

小樽天狗山スキー場ではロープウェイの料金改定、ホテルニセコいこいの村では宿泊バスパックのPRの強化等、増収に努めましたが、景気低迷の影響を受け観光客が減少し、観光事業は総じて厳しい状況となりました。この結果、売上高は71百万円（対前年同期比18.3%減）、営業損失は75百万円となりました。

なお、当セグメントは、スキー場営業期間の関係で、第4四半期の売上高が他の四半期に比べて高くなる季節的変動があります。

## ⑥ その他の事業

旅行業では、空知地区に設けた新たな営業拠点を中心に積極的な営業活動を展開しました。自動車教習所では、教習料金の改定を実施しました。この結果、売上高は729百万円（対前年同期比2.9%増）、営業利益は91万円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は33,348百万円で、前連結会計年度末と比べ671百万円（2.1%）の増加となりました。これは、現金及び預金が1,404百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が796百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は8,757百万円で、前連結会計年度末と比べ899百万円（11.4%）の増加となりました。これは流動負債のその他に含まれている前受金が増加したこと等によるものであります。

純資産合計は24,591百万円で、前連結会計年度末と比べ227百万円（0.9%）の減少となりました。これは、利益剰余金が287百万円減少したこと等によるものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

現時点において、平成21年5月15日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工期1年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これにより、売上高は675,741千円増加し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失は、それぞれ9,168千円減少しております。

(追加情報)

退職給付における数理計算上の差異の償却年数の変更

当社は、退職給付における数理計算上の差異の償却年数について、従来、平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）で償却しておりましたが、平均残存勤務期間が15年を下回ったため、当第1四半期連結会計期間から償却年数を11年に変更しております。

この変更により、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失は、それぞれ17,596千円増加しております。

## 5. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,824,775	5,420,058
受取手形及び売掛金	2,933,133	3,729,344
販売用不動産	61,483	82,768
原材料及び貯蔵品	125,279	131,902
未成工事支出金	310,322	56,453
その他	401,000	364,319
貸倒引当金	△4,209	△5,024
流動資産合計	10,651,787	9,779,821
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,363,675	18,444,208
減価償却累計額	△13,221,847	△13,212,210
建物及び構築物(純額)	5,141,827	5,231,998
車両運搬具	24,981,585	25,474,656
減価償却累計額	△21,920,378	△22,063,878
車両運搬具(純額)	3,061,207	3,410,778
土地	10,727,356	10,734,248
その他	4,263,687	4,159,164
減価償却累計額	△3,660,630	△3,657,870
その他(純額)	603,056	501,293
有形固定資産合計	19,533,447	19,878,317
無形固定資産	89,089	93,253
投資その他の資産		
投資有価証券	2,546,863	2,349,496
その他	737,277	721,716
貸倒引当金	△210,296	△146,041
投資その他の資産合計	3,073,845	2,925,171
固定資産合計	22,696,381	22,896,743
資産合計	33,348,169	32,676,564

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,674,592	1,752,106
未払法人税等	28,505	107,813
賞与引当金	167,703	198,091
その他の引当金	5,533	2,881
その他	3,551,897	2,420,978
流動負債合計	5,428,232	4,481,871
固定負債		
退職給付引当金	2,566,162	2,614,147
役員退職慰労引当金	249,508	252,609
その他	513,176	508,935
固定負債合計	3,328,847	3,375,691
負債合計	8,757,079	7,857,563
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,100,000	2,100,000
資本剰余金	751,101	751,101
利益剰余金	22,540,494	22,828,063
自己株式	△1,116,866	△1,116,639
株主資本合計	24,274,729	24,562,525
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	198,614	131,916
評価・換算差額等合計	198,614	131,916
少数株主持分	117,745	124,559
純資産合計	24,591,089	24,819,001
負債純資産合計	33,348,169	32,676,564

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	6,820,059	7,449,780
売上原価	6,282,828	6,945,078
売上総利益	537,230	504,702
販売費及び一般管理費	557,185	573,235
営業損失(△)	△19,954	△68,533
営業外収益		
受取配当金	30,842	19,859
持分法による投資利益	10,785	9,788
その他	17,653	12,773
営業外収益合計	59,281	42,421
営業外費用		
支払利息	958	1,044
有価証券運用損	422	330
その他	177	77
営業外費用合計	1,558	1,452
経常利益又は経常損失(△)	37,768	△27,564
特別利益		
固定資産売却益	—	9,750
完成工事補償引当金戻入額	15,020	1,595
その他	4,525	4,814
特別利益合計	19,546	16,160
特別損失		
固定資産除売却損	—	33,768
減損損失	21,629	6,892
たな卸資産評価損	66,738	—
貸倒引当金繰入額	—	64,003
その他	8,440	1,891
特別損失合計	96,807	106,555
税金等調整前四半期純損失(△)	△39,492	△117,959
法人税、住民税及び事業税	27,983	23,690
法人税等調整額	66,163	5,960
法人税等合計	94,146	29,651
少数株主損失(△)	△6,346	△6,813
四半期純損失(△)	△127,292	△140,796

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	旅客自動車 運送事業 (千円)	建設業 (千円)	清掃業・ 警備業 (千円)	不動産事業 (千円)	観光事業 (千円)	その他の 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高及び 営業損益									
売上高									
(1) 外部顧客に対す る売上高	5,148,193	477,916	504,167	124,081	85,849	479,851	6,820,059	—	6,820,059
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	19,659	8,522	210,945	83,231	1,252	229,353	552,963	(552,963)	—
計	5,167,852	486,438	715,112	207,312	87,101	709,204	7,373,022	(552,963)	6,820,059
営業利益又は 営業損失(△)	123,855	△146,336	17,707	64,601	△75,370	△16,948	△32,490	12,535	△19,954

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	旅客自動車 運送事業 (千円)	建設業 (千円)	清掃業・ 警備業 (千円)	不動産事業 (千円)	観光事業 (千円)	その他の 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高及び 営業損益									
売上高									
(1) 外部顧客に対す る売上高	4,873,145	1,389,981	457,399	156,816	68,499	503,938	7,449,780	—	7,449,780
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	21,971	17,430	204,323	81,486	2,630	225,548	553,390	(553,390)	—
計	4,895,116	1,407,411	661,723	238,303	71,129	729,486	8,003,171	(553,390)	7,449,780
営業利益又は 営業損失(△)	△9,491	△74,941	16,605	59,640	△75,625	918	△82,894	14,360	△68,533

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。